

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 社会福祉法人せんねん村 中野郷保育園 日本語教室

1 事業の趣旨・目的

外国籍住民、児童生徒と地域住民との懸け橋になっていけるような地域に根差したボランティアの養成を目的とする。

具体的な研修対象者は、日本語教室ボランティアで活動中の人、または日本語教育に関する学習をしたが生かす機会のない人とし、日本語指導面での実践的なスキルアップをはかる。

研修場所としては、一般的な地域の日本語教室とは一線を画した、教育・保育の現場で用されるような日本語に特化した指導を行っている教室とする。

研修を通し、ボランティアどうしのつながりを深め、知識の共有をはかることで継続的なボランティアネットワークの構築を目指す。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成21年7月	西尾市福祉センター	鈴木しげ子 小松典子 菊池寛子 川上貴美恵	委員会メンバー紹介 研修内容、実習回数、場所、担当などの確認	研修の内容、趣旨、目的を理解してもらう場とした。 講座や実習内容の概要を伝え、アドバイスをいただいた。
平成21年8月	西尾市福祉センター	鈴木しげ子 小松典子 菊池寛子 川上貴美恵	研修内容の精査、微調整	研修開始直前のため、タイムスケジュールや詳細事項の確認をおこなった。 実習生への指導に関する統一事項の確認をおこなった。

平成22 年2月27 日	西尾市青 年の家	鈴木しげ子 小松典子 菊池寛子 川上貴美恵	まとめ	今後の活動や教室運営 に関する意見交換 研修を通じての成果や 改善点などをいただい た。
--------------------	-------------	--------------------------------	-----	--

【写真】なし

3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 日本語を教えるボランティアのためのスキルアップ研修
- (2) 研修の目標 継続的に教育現場に入るボランティアの養成
ボランティア同士のつながりを深め、前向きな気持ちやアイデアを共有
する機会を提供し、有意義なボランティアネットワークのベースを作る。
- (3) 受講者の総数 40 人
- (4) 開催時間数(回数) 33, 5 時間 (講座4回、実習10回(一人平均))
- (5) 参加対象者の要件 地域の日本語教室で活動中の人
外国人児童生徒の支援に興味関心のある人
日本語教育については勉強した経験をもつが、実践をする機会
なかった人
- (6) 受講者の募集方法
団体ホームページ、メーリングリスト、ちらし、西尾市広報、教育関係者への
回覧板などを通じて、募集。(募集のチラシ等があれば添付すること。)
- (7) 研修会場
ア 講義 西尾市青年の家・婦人の家
イ 実習 西尾市立西野町小学校
西尾市教育委員会 早期適応教室
イーエーエス碧南校
さくらぎ日本語塾
中野郷保育園 日本語教室
- (8) 使用した教材・リソース
* テキスト・副教材
みんなの日本語シリーズ(訳本 ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語など)
こどものにほんご
ひろこさんのにほんご
さくら小学校へようこそ
おはなしづくりカード・むかしばなしカード

しりとりカード1, 2
あいうえおカルタ 各種類
あいうえおトランプ
日本語能力試験 過去問題集
葛西 ことばのテーブル プリント集
公文 絵カード
にほんご宝島
ペインレス・ジャパニーズ
日本語文法書・ハンドブック 各種
漢字指導用ワークブック 各種

* 辞典・その他資料、書籍

葡日、日葡辞典
ゆびさし会話帳(スペイン語、英語、ポルトガル語、タガログ語)
在留資格・移民政策 関係書籍
日本人移民 関係書籍
クラスメイトは外国人／明石書店
こどもの権利条約／小学館など
三省堂 国語・漢字辞典
在日外国人の教育保障／大学教育出版
外国語絵本(スペイン語、ポルトガル語)
言語発達 関連書籍
外国人住民との共生 関連書籍

* ホームページなどウェブ資料

マイクロソフト クリップアート

<http://www.misaki.rdy.jp/illustr/text/gakkou.htm>

<http://spiderpoison.radicalweb.com.br/kanji.php>

<http://homepage2.nifty.com/juku-subaru/aiueohyou.htm>

http://jqueen.com/zo-kun/a01_02.html

<http://kids.gakken.co.jp/kagaku/100yen/>

<http://www.tufs.ac.jp/common/mlmc/kyouzai/brazil/>

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8月23日 10:30～ 15:30	日本語をおしえるときのエッセンス	富山県高岡市外国人児童生徒学習指導講師、 富山国際学院 非常勤講師 青木 由香 愛知県語学相談員 西三河 ポルトガル語担当 鈴木 ソニア パウラ ジュリアナ	12名
8月30日 13:00～ 16:00	特別講演／地域の多文化共生と日本語	愛知県立大学 外国語学部 准教授 宮谷 敦美 JICE臨時職員 西村バーバラ 西尾市小島地区自治会 旧役員 民生委員 久納 彰 西尾市小島地区自治会 旧役員 小島住宅管理人 有賀 英夫 市民団体 外国人との共生を考える会 会長 川部 國弘	24名
11月21日 8:30～ 10:30	中間ミーティング／ふりかえりと修了をひかえて	西尾市早期適応教室 指導員 菊池寛子	10名

2月27日 13:30～ 17:00	修了講座／なにから 始めたらいいの？	富山県高岡市外国人児 童生徒学習指導講師、 富山国際学院 非常勤講 師 青木 由香	12名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

「日本語教室の役割とボランティア」について

- *とてもわかりやすく、面白い講演でした。初めて専門家の話を聞き、今後役立てて行きたいと思います。
- *教室のボランティアというと、ポルトガル語が話せないといけないのかなあと漠然と考えていましたが、先生の話聞き、興味が湧いてきました。
- *とても勉強になりました。
- *文法などできないと日本語教室ではボランティアができないのかと少し不安もあったのですが、先生の話聞いて違った点から見る事ができてよかったです。
- *聞きやすく、時を忘れるくらいの講義だった。ボランティアだけでなく、人としての関わりであるということに気付かされた。
- *現在、日本語教室でブラジル人に日本語を教えているので宮谷先生の話がとてもためになりました。ありがとうございました。日本語を教えていて、私まで勉強になります。たくさんの発見があります。
- *ボランティアをやっていくうえでの気持ちの持ち方がわかり、とても良い話が聞けた。やっていく上で、不安な気持ちが大きい自信をもってやれそうな気がする。気のサポートが一番大切だと知った。
- *日本語を学ぶサポートをするにあたっての心の持ち方をより広い視野から考えてみる良い機会になりました。
- *貴重な話をたくさん聞いて、勉強になりました。
- *ボランティアの意識、教え方の工夫を分かりやすく伝えていた。
- *日本語教室の役割がよくわかりました。
- *11年前。初めて海外旅行した時に観光地でかわいい女の子に会ったんです。その子と目があって、お互いにこっと笑ったんです。その子の青い目がとても印象的でした。私

の信条は「にこっと笑いあえばだれでも友だち」です。心のサポートが大切ということを知り、そういうことなら私にもできるかな・・・少し安心しました。

* キーワードは「共生」ですね。とても楽しく役立つ encouraging なお話でした。

* Agradeço como "estrangeira" à todos voluntarios pelo interesse e principalmente pelo esforço. Gostaria que todos os voluntarios continuasse trabalho tão importante. ボランティアのみなさんが興味をもってくれたことと、みなさんの努力する姿勢に対して感謝したいです。できれば、みなさんのボランティア活動はとても大切なことなので続けてほしいです。

体験談「学齢期に来日すること」について

* 親が様々な情報を子どもに与えることの重要性を改めて実感しました。会話より筆記が先にできる場合もあることを知りました。

* 生の声を初めて聞き、今までには大変なご苦勞があったんだろうなあと思い、もっとほかの方とも交流をもちたいと思いました。

* とても勉強になりました。

* 体験談を聞くことで、自分自身に見えてなかった所を発見できました。明日からも仕事でその気持ちを心に置いておきたいと思いました。

* 一番興味あることだった。外国での学校の様子や外国人の根底にあるルールや思い、生活について聞くことができるのもっとよかった。日本社会で困ったことは聞いて良かった。ブラジルでどんな教育を受け、どんな生活をしていたのか知りたかった。

* 私も小学校4年生に来日し、日本語話せなくて・・・西村さんの話を聞いて、共感やいろいろ思いました。

* 体験談の聞けることは、今までなかったので気持ちを知ることによって日本人も外国人も同じだなと実感した。

* 小学校で日本語教室を担当しています。言葉のわからない子たちの持つ不安を少しでもなくせるように、褒めてはげますことを心がけたいと思います。

* 私も始めて外国を訪れたときは、同じ気持ちでした。その時の気持ちを忘れずにやっていきたい。

* 親のバックアップの重要性を自分の体験から深く反省している。ボランティアをするに当たっては、里親のつもりで行動する。

* 体験談は説得力もあり、大変良かった。今後も機会があれば、いろいろな場所で話をさせていただきたい。今、学校で苦勞している子どもにも話をしてもらえると子どもたちの励みになるのでは？

* 学齢期に異文化にふれなきゃいけないということは、やっぱり大変なんだな一っつづく感じ、自分はいろんな意味で幸せなんだと改めて思いました。

* 11歳という難しい年頃に異文化に連れて来られた人のナマの体験談。刺激的でした。

「なぜ」に答えてあげること・・・ポイントですね。

「地域の多文化共生」について

- *外国人だからという理由で疑うことをせず、子どもを中心とした地域ぐるみでのイベント等を開催することがとても大切だとわかりました。教育関係の人こそ、川部さんたちの話を聞くべきだと思います。
- *自分も住宅で役員を務め、外国の方とのコミュニケーションの必要性を強く感じています。
- *とても勉強になりました。
- *何もやらないでいろいろ言うよりも、実際やってみてがっかりしたって次のステップの答えが見つかるということが良くわかりました。日々どうしたら相手に伝わるのか自分なりに考えていろいろな見方から考えていきたいと思いました。明日からも頭において、仕事をしていきたいと思います。ありがとうございました。
- *地域のそれぞれの立場の人の気持ちや気づきを聞いて良かった。また、外国人、日本人だからという偏見や差別の大きさなど気付かされた。
- *現在の日本（地域）について聞いて勉強になりました。先生とは何か？国際化とは何か？と考えさせられた。
- *文化の違いは小さなことからたくさんあり、それを理解し合うことはすごく難しいと思う。怒れたり、不満はたくさん出るが、最後は心が通じ合うことが一番大切でそこから始まると思った。ボランティアでも、気持ちが通じ合うことが大切だと思う。そこからお互いの理解ができるように自然となっていくと思った。
- *私の住んでいる地域には大きな集合住宅もなく、町内会の集まりにもほとんど外国人の方はみえません。川辺さんのお話はとても興味深く、自分自身気付かずにきた日本人に欠けるところを目の当たりに提起されたようで、ある意味目から鱗が落ちる思いがしました。
- *自分の隣近所の人とのつきあい方について考える機会になりました。
- *偏見を持たずに接すること。久納さんは行動派なのだなあと思った。
- *勉強になりました。「国籍に関係なく」大変心強い言葉です。上にたつてまとめられる方が、こういう考えをもってみえるのが素晴らしい。
- *一つの家庭の中でもいさかいは多々あるので、ましてや日本人と外国人の中ではトラブルや偏見は当然あるでしょう。それをどう話し合いで解決していくか、大変勉強になりました。
- *「共生」のキーワードは「子どもたち」であるということ。自分のほうから手を広げるという生き方が良いお話でした。
- *川部さんの考えや心の中を知ることができて、それがとても嬉しく、また心強く感じました。ありがとう。

② 実施主体からの研修内容結果評価

研修全体を通して、他団体や教室との連携ができ、受講者や指導者の交流が促進されたことが一番の成果だと感じる。ボランティアの活動は、さまざまあるが「教える」「外国人」「日本語」のキーワードが活動を始める第一歩を踏み出すことを躊躇させる言葉であるということがわかった。

講座は合計4回行い、文法の初歩・指導法から外国人児童生徒の現状、地域の多文化共生、日本語教室の役割にいたるまで、広く浅くわかりやすく、かつ効果的な講座を開催することができた。講座を開催するにあたっては、毎回受講者からの声(メーリングリスト)やアンケートなどを参考にして微調整を加えていくことで、受講者の希望に寄り添ったかたちでの講座にできたと感じる。

9月から12月までの実習に関しては、5箇所の教室や学校にご協力いただき、受講者にとっての貴重な体験となったようだ。各教室の指導方法、テキスト、生徒の日本語レベルや文化的背景、実施時間帯などが様々であるので、大変刺激をいただいたようである。また、別の側面では、実習生受け入れ先の教室にも良い影響があったということを伺っている。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

研修・実習をとおして、数名のボランティアは教室に定着しているので、継続していくための支援をしていく。

ボランティアが向上心や向学心を持ち続けられるように、メーリングリストを活用した情報提供を続けていく。また、受講者どうしが情報を共有できる場としていく。

要望によっては、今後も勉強会や定例会などを開催する。

関係団体のイベント、参加協力にも積極的に応えられるようフォローしていく。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

西尾市教育委員会 早期適応教室

西尾市 多文化子育て支援事業 プレスクール

イーエーエス碧南校 日本語教室

② 研修後の人材活用

研修・実習をとおして、数名のボランティアは教室に定着しているので、支援していく。

外国語の得意な受講者もいたので、多言語する外国人住民の要望にこたえるための支援に加わってもらう。

(12) 今後の課題

本研修を通じて、日本語教室や外国人児童生徒への支援などを始めたり、外国人住民との共生に興味をもった人がいるので、活動が継続されていくような支援を考えていくのが必要である。そのためには、定期的に受講者や地域の日本語ボランティアと連絡をとり続け、心境の変化や問題意識の調査をしていくことが大切だと考える。

始めることが大切だが、続けることは難しい。地域の日本語教室に対する期待は高く、ボランティアに重い負担がかかっているという現状もある。とくに、在留資格、仕事上のトラブル、家庭内トラブル、子どもの教育に関する事など、多岐にわたる質問や不安が寄せられる場合には、専門家へとつなげるための情報提供の方法やマニュアル作成などをおして、ボランティアに負担のかからないシステムにしていくことが、今後取り組んでいきたい部分である。